



EU 臨時首脳会議、欧州委員長の後任巡る協議難航

欧州委員長、EU 大統領（欧州理事会議長）、EU 外交担当との抱き合わせ人事交渉

欧州議会選挙を終え、今秋に任期が切れる欧州連合（EU）の主要ポストを選出する交渉を欧州首脳間で行っていますが、難航しているようです。欧州委員長のポストですが、欧州議会で第1党となった EPP のウェーバー代表（ドイツ出身）はマクロン大統領の反対から選考レースから落ち、第2党の社会党系 S&D 代表であるティメルマンス欧州委員会第1副委員長（オランダ出身）に大阪サミットの最中にトウスク EU 大統領（EPP 所属）、マクロン仏大統領、サンチェス西首相、ルッテ蘭首相、メルケル首相間で合意した（スシ・ディール）ようですが、ブリュッセルに帰ってからの首脳会合で、ヴィシエグラード・グループとイタリアからの反対で、頓挫しているようです。欧州委員長のほか、EU 大統領（欧州理事会議長）や EU 外交担当のポストも 2019 年秋には任期切れすることから、これらのポストとの兼ね合わせも議論されてるようで、ECB 総裁人事は後回しになっています。また、ブルガリアの情報源から、EPP から最低一人を他の要職（例えば、EU 大統領）に出すことで、トウスク大統領はメルケル首相と合意したといわれています。大阪サミットの最中に、EU の首脳間では、ミシェル・ベルギー首相やグリバウスカイト現リトアニア大統領の名前も候補にあがっていたようです。いずれにしろ、主要ポストは、政党グループ、EU 内の大小国、男女のバランスなどを加味して選出されるので、一筋縄には行かなさそうです。欧州首脳らは 2 日に合意できなければ、3 日に招集される新欧州議会が人選に影響を及ぼす可能性があります。欧州議会は議長を選ぶ予定で、EU 首脳の合意がなければ、独自に行動する可能性があります。

（フランクフルト・アルゲマイナー 2019/7/1 より）

4 月 12 日の弊社レポート「欧州議会選挙(2019 年 5 月 23 日～26 日)」もご参考ください。

マーケティングセールス部

2019/07/02

金融商品取引業者：ブライツ・アセット株式会社
登録番号：関東財務局長（金商）第 3102 号
加入協会：一般社団法人第二種金融商品取引業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
HP：www.brightasset.co.jp

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的としてブライツ・アセット株式会社が作成した資料です。投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資に関する決定は、お客様ご自身で判断なさるようお願いいたします。

EU 臨時首脳会議、欧州委員長の後任巡る協議難航

欧州委員長、EU 大統領（欧州理事会議長）、EU 外交担当との抱き合わせ人事交渉

EU トップ人事で大詰め調整 首脳会議

欧州連合（EU）は6月30日、ブリュッセルで臨時首脳会議を開いた。今秋に任期満了を迎える EU 機関のトップ人事を決めたい考え。EU の針路を決める人事だけに各国の主張が対立して調整は難航していたが、ここに来て打開点を探る動きが活発になってきた。

マクロン仏大統領は開幕前、記者団に「（首脳会議で）3つのポストを決めたい」と語り、**欧州委員長、EU 大統領、EU の外相にあたる外交安全保障上級代表を中心に議論する**との考えを示した。**欧州中央銀行（ECB）総裁の決定は少し後になる**という。

欧州委員長人事ではメルケル独首相らが、欧州議会選で最大勢力の会派が推す候補が就くというルールに基づき、欧州人民党（EPP、中道右派）の**ウェーバー欧州議員（ドイツ出身）**を推してきた。マクロン氏らは経験の少なさを理由に強硬に反対している。複数の欧州メディアによると、メルケル氏らはウェーバー氏では各国首脳の支持を得るのは難しいとの判断に傾きつつある。その結果、議会第2会派の欧州社会・進歩連盟（S&D、中道左派）が推す**ティメルマンズ欧州委員会第1副委員長（オランダ出身）**がレースの先頭を走っている。

英紙フィナンシャル・タイムズによると、ウェーバー氏は欧州議会議長（EU 大統領）に就く可能性が浮上しているという。

ただティメルマンズ氏は欧州委で「法の支配」を担当し、欧州委と距離を置くポーランドやハンガリーなど東欧の一部の国の政権と激しく対立してきた経緯がある。人事はなお流動的で、会合前、メルケル独首相は「簡単な議論にはならないだろう」と語った。

EU の執行機関トップである欧州委員長と ECB 総裁は10月に、EU 首脳会議の議長を務める EU 大統領は11月に任期満了を迎える。各国首脳はまず欧州委員長を決める考えだ。欧州委員長は各国首脳らが指名し、欧州議会の承認を得て就任する。人事が本格化したのは5月下旬の欧州議会選から。各国首脳は20～21日の首脳会議でも欧州委員長の選出を議論したが、結論は出ずに30日に持ち越された。28～29日に開かれた20カ国・地域首脳会議（G20 大阪サミット）には仏独伊など主要国が参加しており、水面下で調整を重ねたようだ。

（日本経済新聞 2019/7/1 より）

EU 臨時首脳会議、欧州委員長の後任巡る協議難航

欧州連合（EU）の臨時首脳会議が30日開かれ、コンケル欧州委員長の後任が協議されたが、一部主要国が合意した候補に東欧や中道右派の首脳が反対し、人選は難航している。

ドイツ、フランス、スペインの首脳は先週の日本滞在中、**オランダ出身のティメルマンズ欧州委第1副委員長・元オランダ外相を次期欧州委員長に推すことで合意していた。**

だが、30日の会議では、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロバキアから予想外の強い反対を受けた。

欧州委員長を含む EU の5つの重要ポストの人事を巡る首脳会議は今回で3度目。欧州中央銀行（ECB）の次期総裁もここで選ばれる予定だが、合意に至らないため、決定は先送りされる可能性が高い。

ある EU 高官は「中道右派からティメルマンズ氏に対する反対の声が上がった。彼らは自分たちの候補を支持している」と語った。東欧諸国の首脳らは、ティメルマンズ氏の欧州委員長への指名に反対を表明。同氏は欧州委第1副委員長として、ポーランドとハンガリーの人権違反をたびたび非難してきた。ハンガリーのオルバン首相は首脳会議の前に、EU の保守派リーダーに対し、人事案への反対を表明。チェコ、ポーランドとクロアチアも懸念を示した。

EU 懐疑派が政権を握るイタリアは先にティメルマンズ氏の指名に反対を表明しており、イタリアと英国が投票を棄権した場合、ポーランドとチェコ、スロバキア、ハンガリーの反対でティメルマンズ氏の指名が阻止される可能性がある。

次期欧州委員長は欧州議会が議長を選ぶ7月3日より前に選ばれる予定だったが、一部の外交官によると、7月15日にEU首脳会議が再び開かれる可能性もあるという。

(2019/7/1 ロイターより)

EU 首脳人事、2日に再協議 仏大統領「欧州が分断」

欧州連合（EU）は1日まで開いた臨時の首脳会議で、2019年秋に任期満了を迎える欧州委員長ら首脳の人事案をまとめられなかった。徹夜の協議を終えてブリュッセルのEU本部を離れた首脳からは、立場の隔たりの大きさを伺わせる発言が相次いだ。2日に会議を再開して合意を目指すことになり、トウスク EU 大統領は各国首脳と調整を続けている。

フランスのマクロン大統領は記者団に対し、18時間にわたる会議で合意できず「我々の信認は深く傷ついた」と語った。「失敗は政治的な分断によるものだ」と指摘し、人事案をめぐる EU 域内の意見の溝は大きいと強調した。ポルトガルのコスタ首相は「全てうまく行かずもどかしい結果だった」と漏らした。

人事は欧州委員長のほか、EU 大統領や外交安全保障上級代表（外相に相当）などを、地域や政治会派といったバランスを考慮して決める。オランダのルッテ首相は「信じられないほど複雑だ」と述べ、再協議する2日に人選が決着するかは不透明との認識を示した。

難関は最重要ポストである欧州委員長の選定だ。トウスク大統領や独仏などは、欧州議会第2会派の欧州社会・進歩連盟（S&D）が推すティメルマンズ欧州委員会第1副委員長とする案で調整した。ただ「法の支配」の問題で対立してきたポーランドなど東欧の一部が反発した。最大会派の欧州人民党（EPP）も難色を示し、1日までに溝を埋めきれなかった。

EU加盟国の首脳は2日午前11時（日本時間午後6時）から再びEU本部で会議を開き、人事案の合意形成をめざす。

(日本経済新聞 2019/7/2 より)

バイトマン氏、次期 ECB 総裁の夢破れる公算も – 欧州委員長人選で

ドイツ連邦銀行のバイトマン総裁にとって、悪いニュースとなりそうだ。ドイツのメルケル首相は欧州委員会の次期委員長ポストに、同委員会のティメルマンズ第1副委員長（オランダ国籍）が候補者だとの見方を示した。かつてメルケル氏の経済アドバイザーを務めていたバイトマン氏は、欧州中央銀行（ECB）の次期総裁として現職ドラギ氏の後任に就くことを望んでいた。

メルケル首相は20カ国・地域（G20）首脳会議（大阪サミット）出席に際して発言し、次期欧州委員長の選出で残された現実的な候補者はティメルマンズ氏とマンフレート・ウェーバー氏だけだと示唆した。これはECB総裁ポストにとって大きな意味を持つことになる。ECB総裁にドイツ出身者が就任したことはこれまでにない。

ECB次期総裁については、ブリュッセルで30日夜に開催される欧州連合（EU）首脳会議では決定されないと、ドイツ高官が匿名を条件に述べた。**ECB総裁人事の決定は欧州委員会など極めて政治的なポストと区別するため、9月まで先送りされるという。**

メルケル首相はこれまで、ECB総裁ポストは他のEU主要ポストを考慮して決定されると強調してきた。ECB総裁と欧州委員長のいずれかにドイツ人が就くことを、ドイツが求めているように表面的には受け止められる一方、欧州委員長職を要求せず、欧州委ナンバー2のポストをウェーバー氏に譲ったフランスが、何らかの見返りを要求する可能性は高い。

(2019/7/1 ブルームバーグより)

アイルランド首相、欧州委員長候補報道で可能性を否定

アイルランドのバラッカー首相は26日、報道で次期欧州委員長候補に挙げられたことについて、嬉しくはあるが転職は模索していないと言明した。

欧州委員長のポストを巡っては先週、フランスのマクロン大統領がドイツのメルケル首相の推す中道右派・欧州人民党（EPP）所属の独議員マンフレッド・ウェーバー氏の就任に反対。これを受け、フィナンシャル・タイムズ（FT）とポリティコは、後任候補リストにバラッカー氏を加えた。

今年40歳のバラッカー氏は2年前にアイルランド最年少の首相となり、遅くとも2021年初めには再選を目指す見込み。バラッカー氏は記者団に、「欧州委員長候補とみなされたことは嬉しいが、私には仕事がある。それは、アイルランド首相という仕事だ。私はこの仕事を愛しており、まだ始めたばかり。現段階で転職を模索する計画はない」と語った。

（ロイター 2019/6/26より）

フランス、ECBに女性総裁望む－ラガルド氏など候補

欧州中央銀行（ECB）に初の女性総裁が誕生するかもしれない。

欧州連合（EU）内の幹部人事を巡り加盟国首脳らが争う中で、フランスはECB総裁が獲得可能なポストだとみており、女性総裁が望ましいと考えている。事情に詳しい関係者が述べた。国際通貨基金（IMF）専務理事のクリスティーヌ・ラガルド氏を含め、適切な女性候補が何人かいるという。

ラガルド氏以外で過去に名前が挙がったことがあるのは、フランス銀行（中銀）副総裁のシルヴィー・グラール氏、経済協力開発機構（OECD）チーフエコノミストのローレンス・ブーン氏。他の選択肢として仏財務省幹部のオディール・ルノーバツソ氏もあり得る。

フランスは現時点で、積極的にECB総裁候補を推してはいない。政府の対応は英国の離脱を巡るEU側首席交渉官であるミシェル・バルニエ氏が欧州委員長になれるかどうか左右される。

（2019/7/2 ブルームバーグより）

この秋に任期満了となるEUの主要ポスト

主要ポスト	現職	出身国	任期満了
欧州議会議長	アントニオ・タジャニ	イタリア	2019年7月
欧州委員長	ジャン＝クロード・ユンケル	ルクセンブルグ（EPP）	2019年10月
EU外交担当代表	フレデリカ・モグリーニ	イタリア	2019年10月
欧州理事会議長（EU大統領）	ドナルド・トゥスク	ポーランド	2019年11月
ECB総裁	マリオ・ドラギ	イタリア	2019年10月